

全産業とも業況は足踏みするものの、 売上・採算は緩やかな回復基調に

当所では、藤枝市内小規模事業所の経営動向を把握するため、四半期ごとに景況調査を実施しています。
平成28年7月～9月期の調査がまとまりましたので、概要を報告します。

※本調査は、製造業・建設業・卸売業・小売業・サービス業の5種200社を対象に行っています。今回の回収率72.0%

【主要な表現について】○業況判断：調査対象企業が自らの業績に下した判断。

○DI値：(増加・好転と回答した割合) - (減少・悪化と回答した割合) 悪化すればするほどDI値は▲(マイナス)になります。

管内全産業の業況

業況判断の動向(表1)：全産業での業況は、DI値▲25.9で前回(H28年4月～6月)より3.1ポイント悪化。今回は建設業・製造業・卸売業が悪化となりました。経営上の問題点として建設業では、請負単価の低下・上昇難、製造業では製品ニーズの変化への対応。卸売業では需要の停滞があげられました。

全産業売上高の動向(表2)：依然としてマイナスですが、前回(H28年4月～6月)より全体で4.8ポイント改善しました。

全産業資金繰りの動向(表3)：前回(H28年4月～6月)のDI値から3.3ポイント悪化しました。

全産業採算の動向(表4)：依然としてマイナスですが、前回(H28年4月～6月)より全体で1.8ポイント改善しました。

全産業雇用人員の動向(表5)：前回(H28年4月～6月)のDI値から6.8ポイント悪化しました。

